

『その手につかんで』（女性2名）

素舞台にソファと高いテーブルとハイチェア2脚。テーブルには灰皿とタバコとシズカの小さいバッグ（中にマルチナイフ）。

登場人物…

明日香 … 30代女性。会社経営。

シズカ … 明日香より年下の女性。

ソファに明日香が寝ていて、椅子にはシズカが座っている。（シズカの顔に傷）目を覚ます明日香。周りを見てシズカに気が付く。

明日香は驚きと困惑、シズカははにかむ。

明日香「えっと、えっと？」

明日香携帯（腕時計）を見る。

明日香「8時半・・・えっと・・・」

シズカ「おはよう。ありがとう」

明日香「う、うん・・・何が？」

シズカ「えっ？」

明日香「いや、何でもない」

シズカ「その、ベッド使わせてくれて」

明日香「・・・はい」

明日香見知らぬ女と見知らぬ場所と、自分を見る。

明日香「そのまま寝ちゃったっけ？」

シズカ「そのまま寝ちゃったね。ソファーにばたんって」

明日香「そっか・・・。そっかそっか」

シズカ「二日酔いじゃない？」

明日香「うん。かなり二日酔い、きつい。幻？まだ夢を見ているのかもって」

シズカ「分かる」

明日香「え？」

シズカ「幻、夢、だったらいいのに（少し雰囲気が違う）」

間。

明日香「ああ・・・そろそろ帰えろかなあゝこの後出かける、よね？
長居はよくないよね」

シズカ「うーん。一応チェックアウトは10時？ だったと思う」

明日香「チェックアウト・・・？ そっか、ありがと」

シズカ「明日香さん・・・」

明日香「あ、はい」

シズカ「・・・は大丈夫？ ここ埼玉か栃木だけど、今日用事とか」

明日香「え？ あ、私は自分の会社だから全然大丈夫。今日は特に人と会う用もないし」

シズカ「一緒にいてほしいな」

明日香「というと？」

シズカ「えっ？」

明日香「いや、なんでもない。チェックイン、したんだ・・・」

シズカタバコを取り出す。

シズカ「あーあ」

明日香「何？」

シズカ「ううん。タバコ嫌いだよね？」

明日香「いや。やめた身ではあるけど」

シズカ「そっか」

明日香「吸う人？ 全然吸ってもいいけど。

でもここベランダ？ ないみたいだから、どこで吸えるのかな」

シズカ「ラブホテルだよ。ほら灰皿。あーでも、いいや」

明日香「ラ、ブ、ホ・・・？」

シズカ「ねえ、どうする？」

明日香「え？」

シズカ「私たち。私は・・・」

明日香「どうする？ って・・・昨日は何もなかったんだよね？ 何もなかった、ね？」

間。

シズカ「何もなかった、なんて。そういう風に言ってくれるんだ」

明日香「もしかして強引にキスしたとか・・・」

シズカ「は？」

明日香「酔うとね、つい手が出ちゃってね。ボクのワルイクセ（相棒風）」

シズカ「・・・彼もそういう人だから」

明日香「彼？」

シズカの顔を見る。

明日香「(DVを想像し顔を指して) えっ、あつ、痛い？」

シズカ「え？ あー、うん。でも大丈夫。よくあることだから」

明日香「そっか。・・・えっ？ よくある？」

シズカ「うん。昔はほんとしょっちゅう。最近は少なくなったけど、慣れてるから気にしないで。でも、なんか思ったより血が出てびっくり」

明日香「んつと・・・彼氏に？」

シズカ「電柱とか？」

明日香「デンチュウ！ アレはデンチュウか！」

シズカ「昨日は、明日香さんに思い切り引っ張られて」

明日香「はい？ 私が？ だっけ？」

シズカ「だからね。別に明日香さんのせいじゃないよ」

明日香「そっか、何だろ、申し訳ない」

シズカ「切れたりしてなかった。ほぼ鼻血」

明日香「そっか」

間。

シズカ「ねえ、何か話して、ほしい」

明日香「え、そうだね、えつと」

シズカ「お仕事、は？ さっき自分の会社って言ってた」

明日香「ああ、うん。えつと。建築関係、設計士」

シズカ「すごい」

明日香「そう？」

シズカ「たくさん勉強した？」

明日香「そうだね。小さい頃から建物とかインテリア好きで」

シズカ「へえ」

明日香「えつと」

シズカ「私は、パートで配膳みたいなことを」

明日香「パート？ ・・・あ、結婚してるんだね。早いね。早いのか？」

シズカ「19で」

明日香「おう。どこで出会ったの？」

シズカ「バイト先のお客さん」

明日香「うんうん」

シズカ「専門辞めて、結婚して、彼の会社に」

明日香「専門？ では何を」

シズカ「美容系。美容師の方」

明日香「そうなんだ。美容師になりたかったの？」

シズカ「別に」

明日香「そうなんだ。彼は会社経営してるんだね」

シズカ「うん」

明日香「どんな？ 聞いていいのかな」

シズカ「よく分からない。私もすぐ辞めちゃったし」

間。

シズカ「・・・。ごめんなさい、つまらないよね？」

明日香「いやいや。会話は対等なんだから、お互い様だよ」

シズカ「うん」

間。

明日香「どうする？」

シズカ「えっ」

明日香「さっき言ってた。どうする？ って」

シズカが明日香の手をつかむ。

明日香「え、何？」

シズカ「ねえ覚えてる？」

明日香「・・・」

シズカ「私の手をとってくれた瞬間」

明日香「えっと・・・」

シズカ「私、救われた」

明日香「・・・」

シズカ「嘘？ 覚えてないの？」

明日香「・・・」

シズカ「私と逃げてくれた」

明日香、手をはらう。

明日香「逃げた？ 私が？」

シズカ「うん」

明日香「あなたのために？」

シズカ「そう、そう言ったじゃない。守ってくれるんでしょ？」

明日香「私そんなこと言った？」

シズカ「私が何とかするから、とりあえずついて来いって。」

明日香「それは、なんというか・・・その・・・ってか、なんで私が守らなきゃいけないの？」

シズカ「私、誰かに守ってもらわなきゃ」

シズカが明日香の手をつかむ。

明日香「守りたいの？」

シズカの手がゆるむ。明日香は手を放す。

明日香「私さ、ほしいものはすべて手に入れてきたんだよね。

二十代でほしいものは全部。違うな、結婚したかったんだ。それだけ、それ以外かな」

シズカ「・・・結婚」

明日香「適当な会社入って、一年で一億売上あげて。昇格の話を蹴って転職して。事業部のトップでやりたいようにやり尽くして。嫌われながらね」

シズカ「明日香さん？」

明日香「別にいい。だって大切なのは結果でしょ？ って。

で、独立して、仕事いっぱい取って、稼いで、別荘持って。がんばってきたんだよね。死んでも言わないけどね。大変だったとか、忙しいとか、死んでも言わない」

シズカ「明日香さん」

明日香「なめられないように尖って・・・で、色々失ってさ・・・。

一人じゃダメなんだって、これからどうしよって・・・。
それで・・・」

明日香思い出す。(一部)

明日香「あなたの手を・・・？」

シズカ「正直うれしかった。あなただってそんなに幸せじゃない。そのことが」

明日香「幸せだよ」

シズカ「失ったんでしょ？」

明日香「・・・色々ね」

シズカ「どうして？」

明日香「がんばり過ぎたのかもね。一人で何でもできる、いや、しないと思ってて」

シズカ「それでも勝ち組のまま」

明日香「勝ち負けがすべてじゃない。でも負けちゃいけない」

シズカ「誰に？」

明日香「誰にも」

シズカ「・・・幸せ？」

明日香「幸せだよ」

シズカ「失ったんでしょ？ というより奪われた」

明日香「失っただけ。私の手からなくなっただけ」

シズカ「取り戻したい？」

明日香「いない」

シズカ「苦しくない？」

明日香「苦しいと思うの？ 何も自分でつかもうとしないあなたに」

シズカ「そんなこと言わないでよ」

明日香「言ったもん勝ち。アイデアとかカタチのないものって」

シズカ「・・・」

明日香「それを奪われちゃったら、もう無理なんだよ」

シズカ「やっぱり奪われたんだね」

明日香「だからもういいんだって」

シズカ「無理してない？」

明日香「・・・」

シズカ「ねえ？・・・ねえ？」

明日香「仕方ないでしょ。待ってるだけで何か手に入る人生じゃないんだから。
(怒鳴る) あなたみたいな待ってるだけの・・・」

シズカ「・・・大きい声出さないで」

間。

明日香「・・・ごめん。ほんと」

シズカ「・・・大丈夫」

明日香「母親そっくり。最悪」

シズカ「大丈夫？」

明日香「大丈夫」

明日香思い出す。(すべて)

明日香「待って。待って待って。あれ？ あれは（どこに？ てか何？）」

シズカ「あれって？ これ？（刺すジェスチャー）」

明日香「うん。それ」

シズカ「これは彼の」

シズカマルチナイフを取り出す。

シズカ「ビクトリノックス」

明日香「それ」

シズカ「いつも振り回してて」

明日香「輩じゃん」

シズカ「彼から盗んできて、で、なぜか店に彼が現れて」

明日香「そうだ……。アイツ来て、カツヤだっけ？ それ刺さってなかったっけ？」

シズカ「うん」

明日香「え、ちょっと思い出せないんだけど、シズカさんがもみ合って、私が絡んで入って、更にもみ合ってアイツに刺さって、刺さった瞬間ってナイフは？ 私？」

シズカ「明日香さんが持ってたでしょ。」

私は突き飛ばされて、その時小さいガラスの冷蔵庫割っちゃって、それ片してて。
中のドンペリ8本割れちゃって。40万弁償って言われて、でも明日香さんが『何出し値で請求してんだよ。原価で領収書切れや』って」

明日香「え？ もみ合って刺さったんじゃないくて？ 刺し・・・た？」

シズカ「うん」

明日香「ああ」

シズカ「すごい迫力で『今すぐ原価調べろ！！』ってナイフちらつかせて」

明日香「あー」

シズカ「で、カクヤス？ に確認している間に『行こ』って」

明日香「待って、腕だよ。刺さったの」

シズカ「うん。刺したとか切った？ 血は出てたけど深くはないよ」

明日香「なら私、何で逃げたの？」

シズカ「『飲んでもねえ酒に払えるかよ』って」

明日香「そっちな」

シズカ「タクシーでもイキってたよ」

明日香「何て？」

シズカ「『どこまでも行ける気がするわ。運転手さん5万円分走って』って」

明日香「恥ずかし。忘れさせて」

シズカ「・・・うん」

明日香「・・・ねえ、何を失ったって言ってたけ？ 昨日飲んだとき？」

シズカ「私？・・・友だち」

明日香「友だち？」

シズカ「友だちから彼を」

明日香「・・・そうだったね」

シズカ「彼女、私より頭が良くて・・・」

明日香「うん」

シズカ「二人は付き合ってるんだろうなって思ってた。否定してたけど。まあよくあるやつ。

でも何となく。何となく彼と関係した。

バイト先、スナックだったんだけど」

明日香「スナック」

シズカ「スナック。バーじゃない。お酒好きなら、飲みながら稼げたらいいでしょって誘われて。

でも体的に結構つらくて」

明日香「うん」

シズカ「彼、彼女のお客さんだったんだけど、接客下手な私をよく気にかけてくれて」

明日香「うん」

シズカ「でもユキちゃん私より頭いいからさ・・・。

カツヤと今でも会ってて、仕事一緒にしてて。

信頼し合ってる、みたい。私には分からない関係。

ふたりはきつと・・・。

カツヤはね、たぶん私を選んだことを後悔してる。

話してもイライラさせちゃって、苦しい。私が悪いのかな、って。それで私・・・」

明日香「彼のビクトリア何とかを奪って外泊をね」

シズカ「分かってる。子供っぽいって」

明日香「かわいいよ」

シズカ「え？」

明日香「何でもない。でも、シズカさんが、変われば、何か変わるかもよ」

シズカ「何もできないよ私」

明日香「でも、彼はあなたを選んだんでしょ」

シズカ「それを後悔しているのかも」

明日香「そう言ったの？」

シズカ「言ってる。でも」

明日香「でも、何？」

シズカ「ふたりは寝てる。それは許せない」

明日香「確信が？」

シズカ「分かるでしょ。そんなの」

明日香「・・・分かるね。でも、彼はあなたを選んだ」

シズカ「うん」

明日香「（独り言）うらやましいよ」

シズカ「（驚く）」

間。

シズカ「ねえ、なんで私の手をとったの？」

明日香「・・・」

シズカ「何で？聞かせて」

明日香「友だちから彼を奪ったって聞いて」

シズカ「・・・それが何？」

明日香「それだけ」

シズカ「・・・それだけ？」

明日香「私は奪えなかったから」

シズカ「奪ったなんて。それは違う」

明日香「選ばれた、だね」

間。

明日香「ねえ、シズカさんは、自分で選んだものあるの？」

シズカ「ひとつ」

明日香「ひとつ？」

シズカ「彼」

明日香「なんでほしかったの？」

シズカ「分かんない」

明日香「ほんと？」

シズカ「とりえがないの私。もっと恵まれてたらって思う。
でも、愛の前じゃ誰もが対等でしょ。
だから・・・選ばれたから、かな」

間。

明日香「ねえ。どんな未来がいい？　どうしたい？」

シズカ「・・・」

明日香「私といたい？」

シズカ「・・・やり直したい」

明日香「彼と？」

シズカ「うん」

明日香「・・・そっか」

間。

明日香「何ができるかな？　私はあなたに」

シズカ「何も」

明日香「・・・だね」

シズカ「負け犬なんだ。ずっと。でも彼は私を選んだ」

明日香「・・・」

シズカ「ねえ、私幸せになれるかな？」

明日香「・・・自分でつかみな」

シズカ「恵まれてるあなたには分からないよ」

明日香「・・・そうかもね・・・でも・・・」

シズカのスマホが鳴る。

シズカ「・・・カツヤ？　うん。」

・・・確かにホテルだけど。・・・GPS？　・・・ビクトリノックスに？」

二人マルチナイフを見る。

シズカ「えっと、ケガは？　・・・よかった。じゃあ、刺した人は？　・・・よかった。
・・・知らない人。何でもないよ。ほんと知らない人」

明日香「・・・」

シズカ「ねえ別れて。それで選んで、私かユキちゃんか。
・・・これから帰るから、ちゃんと考えて」

シズカが出ていこうとする。明日香が手を取るが離される。

明日香「いくら？」

シズカ「いいよ」

明日香「ドンペリは払うから」

シズカ「いいよ。割ったの私だし、それに、ここまで連れてきてくれた」

明日香「・・・（独り言）まあ、下心だから」

シズカ「え？」

明日香「いや、何でもない。・・・でも、あなたも特別なんだよ、恵まれてる」

シズカ「そんなことない。・・・ありがとう（見ずに）」

シズカ退場。

明日香「よかったね」

暗転。

脚本：黒島れい